

平成29年11月24日

議会報告会報告書

議会広報広聴特別委員会委員長 様

議会報告会 3班
班長 菅野 浩考
石原 修治
野村 誠
植田 和子
西川 誠之
森 亮二
海老原功一

私の班は議会報告会を開催し、その概要は下記のとおりでしたので、ご報告します。

記

- 1 日時 平成29年11月12日（日）
午前9時30分～午前11時30分
- 2 場所 生涯学習センター（流山エルズ） A103
- 3 欠席議員 無
- 4 来場者数 市民来場者 9人
議員・職員 4人
- 5 報告内容

「地産地消」とフリーディスカッション

6 意見交換内容

市民：「地産地消」がおおたかの森で上手くできないか。また、農協が「地産地消」についてどの程度考えているのか。

直接、生産者と関わりお互いに知恵を出し合って今後、どうしていくか考えるべきではないか。

市民：流山市には「道の駅」がない。農協圏である流山を今後どうやって土地を有効活用しながら反映させていくのか。

議員：流山市に限らず、議会では予算権、執行権がないのでこのような報告会での市民の意見を検証し提言していきます。

議員：10年前にJAが出した数字ですが、農業従事者の平均年齢は59、7才であり現在さらに高齢化していると思われます。年収においても50万円以下が全体の20%、50～100万円以下が18、6%、100～200万円以下が16%、200～300万円以下が6、4%、300～1000万円以下が15、7%、1000万円以上が3、6%です。スーパーなどの直売コーナーでは手数料が約20%とられます。「^{しんせんぐみ}新鮮食味」の状況は月収約200万円、年収約2500万円で約50農家が参加しています。

市民：家内は買いに行っているようだが「新鮮食味」のネーミングが中々インパクトされない。場所がどこにあるか知らないし、ブランディングが上手くいっていないのではないか。

議員：場所はおおたかの森高校の向かいにあるコミュニティーセンター内にあり、朝取りの野菜は10時までに行けば手に入ります。

市民：私の実家はそば農家で、父親に将来性がないという

事で勉強しろと言われていた。そばの実100g10円だがそば粉なら100円になり天ざるになったら一杯1000円になる。材料としてだけではなく、いかに付加価値をつけることにより成功につながると思う。そうすれば後継者も後を継ごうと思うのではないか。

市民：昨日初めてキッコーマンアリーナに行ったが、来場者が非常に多かった。「新鮮食味」については流山市に40年近く住んでいるが、話題にならなかった。流山市と縁が深いキッコーマンに力を借りて、「道の駅」に負けないような組織づくりができないか。モデルケースとして流山市でやったらどうか。

議員：市民経済委員会でも流山市から産物だとか開発したものを売っていきたいという思いがあり、福岡県大野城市に視察に行ってきました。大野城市では色々なイベントに取り組んでいて、「とりぼっこ」という鶏肉や地元の野菜で作った商品を開発し、イベントを通じて売り出しています。地域が交流人口を含めて活性化している報告を受けています。そのような先進事例と先程ご提案いただいた案も含め、これからしっかりと協議していかなければならない課題と考えます。また、「地産地消」は地方から流山への農産物の運搬で排出されるCO₂を削減するためには、地域で消費し環境面も考えていかなければならないと思っています。

議員：国も今、六次産業化を進めており、生産から加工そして販売までを自社でさせてしまおうと助成金や補助金を出して進めています。これからは農業も経営者でないと成り立たなく、農家として作っているだけでは厳しくなっています。農地の大規模化というものも国も進めていて流山市としても大規模化が少しずつ進めている中、私たちとしてもこういった六次産業をしやすい創業者が出てくるための施策を考えていかなければならないと思っています。また、地元の「地産地消」を進める意味では、市の農業の物産所推進係も頑張っていて、地元の若手農家さんを

引き合わせて勉強会をやったり、飲食店経営者とお見合いなることをして、まちづくりをしているレストランが地元の野菜を使ったりしています。

市民：今後、農業を企業化すべきだと思う。農協は生産物の販路をつくることが仕事であり、安心、安全が一番であるため、政治家はまず現場（農家）を歩いてもらいたい。あと、食品ロスも忘れず取り組んでもらいたい。

議員：今後、流山市も少しずつではありますが、食品ロスに取り組んでいくということです。3010運動というものをご存知ですか。長野県松本市の一例ですが宴会等で大量に食品が残ってしまうということで、店側から幹事さんに始まってから30分はまず食事をしましょう。終わる前15分は席に戻って食事をしましょう。と言っただけでも食品ロスは削減されます。年間、日本では約632万tの食品ロスがあり、半分が飲食店や業者関係であと半分は家庭からでていきます。皆さんがほんの少し意識を持つことで食品ロスは削減され、これも「地産地消」につながると思います。

市民：もう一つの食品ロス、例えば曲がったきゅうり等は捨てるのではなく、給食等に使うことも考えるべきだと思います。

市民：「地産地消」という事は、地球温暖化でフードマイレージ、食品ロスの観点からだと思っていました。排気物、フードマイレージ、日本は輸入が多いということで、輸送により発生するCO2の発生が非常に多い。「地産地消」は自給自足であり、流山市には「道の駅」はないが、最近スーパーでも少しではあるが流山の野菜が出ていると聞いた。やり方によってはさらに広がっていくと思う。

議員：長距離よりも近い所で消費することによって、エネルギー消費等削減できることは「地産地消」につながりますし、違う観点から環境に伴う取り組みでもあると思います。

市民：全国で農業特区はどのくらいありますか。

議員：構造改革の制度として、農業で規制緩和を持ち合わせている地域は全国的に何か所かある。鳥取県、島根県などの過疎地で農業特区の恩恵を受けている。首都圏ではない。

市民：市として地元を農業特区とする動きはないのか。

議員：小泉政権時代の構造改革は残っていて、今でも申請の窓口はあります。地方から農業申請の目的はありますが、都市部においては都市型農業を残そうという声はあっても、流山のように農地を売って企業進出やあ工業団地整備に充ててしまうことが多く、農業を残そうとする申請はあまりないのが現状です。

市民：野々下地区の現状は、地主さん達の土地はほとんど賃貸マンションに変わってしまっている。例えば神奈川県は日本で一番住みたい街と人気がある。東京への通勤で遠くとも住みたい街で、なぜかブランド力があるし休みの日には楽しめる街である。ここに住みたいという魅力をつくらないとつまらないです。では流山はどうか。休日を楽しめる状況にしないといけないと思うがどうか。

議員：そういう意味においては、井崎市長もシティーセールス、マーケティング戦略の一環として、食・住・遊、の遊の部分では、休日に多くのイベントを開催しており、市民のニーズは高まっていますし、満足度も高まっているのではないかと思います。ただ恩恵を受けているのは、おたかの森周辺などの一部の地域ばかりではなく、他にも目を向けてほしいとの反発の声もある。どのように楽しむことを創出するかかというなか、行政の努力だけではなく、民間や市民の皆様のアイデアも必要となっていくのではないかと思います。

市民:あそこに行ったら美味しいものが食べられるといったものが必要ではないか。

議員:関東の様々な自治体が行っている B 級グルメの企画や、滞在型のまちづくりはどの自治体も頑張っていると思う。

7 市民からの意見・要望

* 議会としては建設的意見もあり良かったが、会派により取り組みが違うということから、答弁が曖昧になりやすいので、今後は会派ごとの報告会を希望する。

* 「地産地消」については流山市民祭りなどで、地元野菜の料理実演コーナーなど実施してはどうか。広報に料理法や人気料理を PR したり、HP も OK で、学校料理のレシピを載せて各家庭に普及を図る。また、ベットタウン流山にあったものを介護施設に供給してほしい。

* 「地産地消」の活動の具体的策がもっとほしい。学校給食の「地産地消」のような例をもっと作ってほしい。

* 「地産地消」は農業だけでなく、建築業にも視野を広げてほしい。大手ハウスメーカーに負けない地元建築業を育ててほしい。

* 流山市ではまだまだ大きな農産物は取れておらず、これからだと思う。野菜も少し食べれば満足ということで、細い人参や小さなトマトが主流品種となってきたところで、学校給食へ供給となると大きなサイズの野菜にまた戻らなくてはならない。そのあたりの活路を考えてほしい。

* 流山本町の路面は観光道路として変えてくれているのですが、夏は暑くて歩けない。ひさしがあって、椅子があって、屋根がある途中の休憩所がほしい。

* ぐりーんバスのバス停にベンチがない、ひさしもない。お年寄りが利用しやすいようにすべき。料金体系も春夏秋

冬で変えたらどうか。

8 所感

(菅野 浩考)

今回は新しく編成された市民経済常任委員会のメンバーで議会報告会を実施しました。地元の国会議員が農林水産大臣に就任された事を受け、国と地方の連携や意見を国へ提言する事が正に現実可能となっている現状に、流山市の地域活性、農業、街おこしなどを結ぶ「地産地消」事業が本市の課題であるとの認識のもと、議会報告会のお題として市民のご意見を伺う一つの試みも兼ね実施致しました。各委員が農家に出向きヒアリング、他市への行政視察など各委員が研究を重ねています。

今後、農業委員会の皆様との意見交換も含め、条例発議もしくは提言書など、流山市農家の声を纏めたものを市又は国へ、委員会として提出し流山市農家の声を反映する為の実効性のある常任委員会として積極的に取り組んでいきたいと思えます。

(海老原 功一)

今後、市民の皆さんからの貴重なご意見や要望を真摯に受け止め「地産地消」に取り組んでいく訳ですが、このテーマに取り組んでいくためには、まず私たちが農家さんを知ること。そのためには、畑に出て野菜作りを体験する事から始めるべきと考えています。

(森 亮二)

「地産地消」というテーマを設けたことで、これからの街づくりを考える皆さまにお集まりいただけたように思います。おそらく「地産地消」という行政・業界用語は浸透してきましたが、実際には日々意識をして生活したり、消費行動をとったりしている方は、まだまだ多いとは言えま

せん。実際に「直売所」の存在を知らないことなどは、それに値するものだという印象を受けました。

そのようなことから、「地産地消」を推進していくことは全市民的かつ継続的なテーマと捉える必要があり、今後も市民の皆さまと一緒に考え、行動していくことが求められそうです。

（植田 和子）

今年度、全ての常任委員会の構成が変わり、また新たなメンバーで議会報告会を開催させて頂きました。市民経済委員会として、「地産地消」についての意見交換をさせて頂きましたが、市民の方々の意識の高さにとても驚きました。様々なアイデアをお持ちで、ハッとさせられることばかり。流山市は、人材も豊富（変な言い方ですが）なのだとあらためて気づかされました。農業についても、まだまだ知らない事ばかりなので、（もっと勉強して、ついていかなければ）と思っています。

（西川せいし）

「地産地消」をテーマにした報告会の参会者の一番の関心事は本市が直面している農業環境において①高齢化急進②後継者不足③遺産相続・農地処分の件④暮らしてゆける規模以上の売上げが困難⑤スーパーなどの直売コーナー歓迎だが手数料20%は痛い・難しい⑥「新鮮食味」は出色の直売拠点だが、場所的にもっと集客できる場所での展開はできないか。などの問題点・悩みが会場からも、また事前調査の段階でも指摘されており、「地産地消」の枠を超えた根本問題が質疑の中心となり、今後の更なる検討時に配慮する必要があるであった。従来と同じ状況・傾向であることは執行部も受け止めており、改善策が容易に出るとは思えないが、出来るところから一つ一つ提案してゆく。

(野村 誠)

「地産地消」のテーマで行いましたが、非常に意識の高い市民の皆さまが参加していただいたと感じました。今後の「地産地消」施策を推進する上で、様々なヒントになるご意見もいただけたと思います。女性の参加が1名だったのは少し残念ですが、今後はより多くの市民の皆様、女性の皆様にも興味を持って参加してもらえそうなテーマの選定も考えていきたいと思っています。

(石原 修治)

今回の議会報告会のテーマは「地産地消」とし、流山市の産業振興について、産業振興基本条例の制定の背景や骨子、「地産地消」の取り組みから、流山市の現状と課題を再確認出来たのかなと思います。今後、市民の方々の貴重なご意見やご要望をもとに、今回の報告会が有意義なものとなるよう、今後、市民経済委員会で十分なる検証・検討・提案をしてまいります。